

ブラジル 需要低迷によりオレンジ果汁の輸出が減少

[FreshPlaza 2025年10月17日](#)

ブラジルの果汁業界団体CitrusBRのデータによると、2025年7月～9月期のブラジルの果汁輸出は前年比4.4%減少した。この減少は、収穫の鈍化と主要市場における消費者需要の低迷の中で発生した。

ブラジルは依然として世界最大の果汁輸出国であり、ヨーロッパ及び米国への主要な供給国である。しかし、同四半期のヨーロッパへの輸出量は前年同期比で23%近く減少し、全体の減少の主要因となった。対照的に、米国への冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)の出荷額は前年同期比17%増加した。中国及び日本への輸出はそれぞれ34%(中国向け輸出額)及び69%(日本向け輸出量)減少した。

CitrusBRのイビアパバ・ネットー事務局長は、収穫のペースが遅いことが重要な要因になっているとして、「8月中旬の時点で、2025/26年度の予想収穫量の約25%が収穫されたが、前年の同じ時期には50%が収穫されていた」と述べた。この遅れは、涼しい天候が果実の成熟を遅らせたことによるものである。

消費者の需要は、業界にとって依然としてもう1つの課題である。2024年の価格高騰は、飲料製造業者が水分が多く果汁が少ないブレンド果汁にシフトしたことで相まって、消費レベルの低下を招いた。ネットー氏は「前作からの価格高騰及び悪天候による品質問題が消費者の選択に影響を与え、他の製品への切り替えにつながったというのが一般的な見方である」と説明した。

同氏は、高品質の果汁に対する消費者の嗜好の変化が収穫時期にさらに影響を与えていると付け加え、「市場では品質面の要求がより高くなっており、適切に熟した果実が必要なため、収穫のペースと加工に影響を与えている」と述べた。

FCOJの価格は需要の減退に伴い2024年8月に急落し始め、2025年の前半まで続いた。その後、市場は2025/26年度の作柄と主要生産者による契約協議の決着を見守っているため、価格は安定している。

エクスパナ社の市場データによると、9月のヨーロッパ渡し(FCA)濃縮果汁の指標価格は3,750ドル/トンで、前月と変わらなかった。情報筋は同社に対し、消費者の関心の度合いは小売価格の水準に大きく依存し、今後数カ月で競争力が高まる(価格が下落する)可能性があると言った。

出典: Mintec/Expana

(関連記事)ブラジル 米国向けオレンジ果汁輸出が増加(一部省略)

[FreshPlaza 2025年10月13日](#)

2025/26年度の第1四半期(7月～9月)において、ブラジル産オレンジ果汁の米国向け輸出は38%増加した。CitrusBRによると、この期間に米国は冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)9万2,700トンを輸入し、輸出額は前年同期比17%の増加となる3億1千万ドルに達した。牛肉、コーヒー等の他の一次産品と異なり、オレンジ果汁は米国政府による50%の追加関税の対象外であった。米国はこの期間のブラジル産オレンジ果汁輸出全体の49%を占め、依然として最大の輸出先であった。

一方、7月～9月の欧州向け輸出は23%減少し、8万9千トンにとどまった。(中略) 欧州は47.8%のシェアを占め依然として第2位の輸出先であるが、輸出額は3億6,340万ドルで31%減少した。中国向けの輸出量は44%減の3,400トン、輸出額は34%減の1,890万ドルで、全体の約2%を占めた。日本向けは最大の減少率を示し、数量では69%減の1,600トン、金額では62%減の2,510万ドルであった。

全体としては、ブラジルは第1四半期に前年同期比で4.4%減の18万9千トンのオレンジ果汁を輸出した。輸出額は7億1,360万ドルで、17.6%の減少となった。(中略)

2024/25年度シーズンには、ブラジルのオレンジ果汁輸出額は前年比31.4%増の33億1千万ドルであったが、輸出量は74万5,593トンに減少し、1997年以来の最低水準となった。(後略)

出展: Datamar News

(訳注: 上記の記事と重複する記述は省略しました。)